

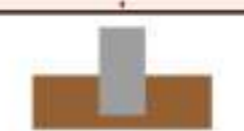

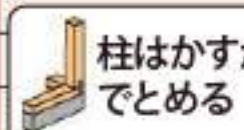




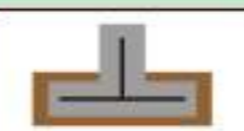
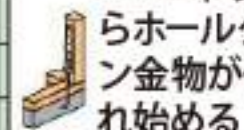


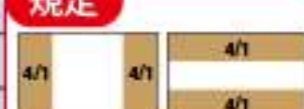



地震年表	建築基準の変遷	各項目に関する規定				
		基礎	壁の量	筋交い	壁の配置バランス	接合部
1940	1920年 市街地建築物法施行			1924年 筋交い等の耐震規定が新設された		
1942	1924年 市街地建築物法の大改正					
1944						
1946				筋交いは釘で柱などに固定する		
1948	1948年 福井地震 (M7.1)					
1950	1950年 建築基準法制定 壁量の規定		規定  必要壁量が制定された	規定 「筋交いはボルト・かすがい・くぎ・その他の金物で緊結しなければならない」と規定 (施工令 45条)	規定 「張り間方向、及びけた行方向に、釣り合い良く配置しなければならない」と規定 (施工令 46条)	
1952						
1954						
1956		 底盤のない基礎でもよかった				
1958	1959年 建築基準法改正 壁量の強化		規定  必要壁量が改正された			 柱はかすがいでとめる
1960						
1962						
1964	1964年 新潟地震 (M7.5)					
1966	1965年 十勝沖地震 (M7.5)					
1968						
1970	1971年 建築基準法改正 基礎の布基礎化	規定  コンクリート造又は鉄筋コンクリート造の布基礎とすることが規定された		 平金物が使われ始める		
1972						
1974						
1976						
1978	1978年 宮城県沖地震 (M7.4)					
1980	1981年 建築基準法改正 壁量の再強化		規定  必要壁量が改正された	 筋交いプレートが使われ始める		 1979年頃から平金物などの金物は公庫で推奨され始める
1982						
1984						
1986		 鉄筋入りの基礎が徐々に広まる				
1988						
1990						 1988年頃からホールダウン金物が使われ始める ただし通し柱のみ
1992						
1994	1995年 兵庫南部地震 (M7.2)					
1996						
1998						
2000	2000年 建築基準法改正	規定  地耐力に応じた基礎構造が規定された		規定  筋交いのサイズによって筋交いを止める金物が指定された	規定  はじめて壁の配置バランスに関して規定された	規定  強い壁には強さに応じた金物を使用する事が規定された
2002	2001年 芸予地震 (M6.7)					
2004	2003年 三陸南地震 (M7.0) (宮城県北部地震)					